



スペースが設計・施工 地域色生かした空間に

2017年に閉校した旧山鹿市立千田小学校が1日、コワーキングスペースや宿泊施設に地域色を取り入れた複合施設「YAMAGA BASE」としてオープンした。

同校の卒業生と山鹿市内企業の代表者が共同で会社を立ち上げ、約3万平方メートルの敷地とRC造2階建の校舎棟など延床面積約3000平方メートルの施設を購入し、昨年10月から内装の改修を進めていた。

校長室がクリエイティブス

廃校活用し「YAMAGA BASE」オープン

タジオ、理科教室がキッチンスタジオ、コンピュータ教室がコワーキングスペース、音楽教室がイノベーションスタジオ、普通教室が宿泊施設など12の用途に変更した。

改修にあたっては、山鹿灯笼職人による灯笼照明や来民団扇などの伝統工芸品、綾杉やチブサン古墳、さくら湯、八千代座、ワイン樽などが各所に取り入れられ、山鹿市らしさと魅力を感じられる空間となっている。

3月29日、開業を前に報道公開された。設計・施工を担当したスペース（東京都）の大田寛章・大阪本部事業部長は「農業や産業、観光といった山鹿市の多くの魅力を踏まえながら、最新設備や考え方をプラスしてカオスな状態をつくった。ワクワク、ドキドキしてもらえたら」と空間づくりの仕掛けを解説。全国で年300〜400校が廃校となり、各自治体が跡地利活用を検討している状況について、「弊社が得意とする商業施設でのにぎわいづくりを、地域や社会に活かし貢献できるようにアップロードしていきたい」と話していた。